



あつぎこどもの森クラブ

# くぬぎ便り

第16号

年初より発生した新型コロナウイルス感染症は半年を過ぎた今でもその先行きは見通せず、我々の日常生活、社会経済活動を一変させております。クラブ会報の「くぬぎ便り」も一時期発行を停滞させておりましたが、今号より各プロジェクト持ち回りで発信していくことになりました。

## 移り変わる植生



あつぎこどもの森公園が開園してから4年半たちました。管理棟前から続く切り通しの道は、四季それぞれ違う姿を見せています。初めここは山を切り開いた赤土の崖がありました。工事も入れて6年余りの間に自然は自分の持つ力で、年々姿を変えながら移り変わっています。

真夏日の続くこの夏のある日、切り通しを歩いていくと純白の花が目につきました。

### センニンソウ

夏の終わりごろから初秋にかけてガク片が4枚の白い花をつけます。茎や葉を手折ると出る汁は触れると炎症を起こす有毒植物です。花の後に果実より伸びた銀白色の長毛が密生した様子を、仙人のヒゲにたとえセンニンソウと呼ばれます。切り通しの日当たりのよいところが好きなようです。

さてこのセンニンソウどんな仙人に化けるのか、次号でお知らせします。

(8月19日撮影)

## 切り通しの崖で、植生が遷移する様子

(生物の世界が自分の力で変わっていくことを遷移といいます)



山を切った崖（法面）をそのままにしておくわけにはいかないので、土留めをします。そのとき、よくあるように緑化植物の種子を吹き付けることは、自然度の高いここに外来種を持ち込むことになるのでしませんでした。（左の写真は2015年3月）

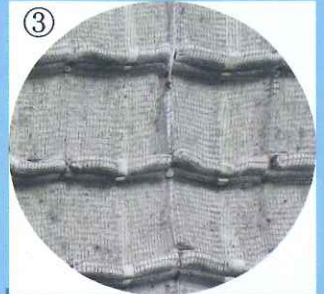
そこで、土留めのやり方について、3通りの案を考えて、下の写真のような試験をしました。（2014年8月）



① 土を止めるためのネットを張っただけ



② ネットの間に肥料を入れる



③ 肥料とともに山を削る前に取っておいた表土を入れる



各案の評価試験の様子

各案を評価した結果「③」がよいと分かったので、前面にこの方法で土留めの工事をしました。上の写真は那时的様子です。一部空いているところは地層を見せるためにわざとここだけは何もしないことにしました。

### 2016年 開園の年です

早くも草が生え始めました。外来種で種が風で運ばれるダンドボロギクやセイタカアワダチソウが目立ち、道に近いところにはこれも外来種でひっつき虫のコセンダングサが生え始めました。



在来植物では、コシオガマ（左）が出たのが印象的でした。もっともその後は見られなくなりました。（2016年11月）

法面の下、道路との間の土がたまる場所にはコナラ（右）の芽生えがたくさん見られました。落ちたどんぐりから自然に発芽したものです。（2016年6月）



## 2017年10月の「切り通し」の様子

法面にはセイタカアワダチソウがいっぱいに茂りました。場所によっては、ススキもちらほら見られます。私たちは、この法面がススキでいっぱいになったら、お月見の時など想像して良いなと思っていました。



セイタカアワダチソウ



ヤクシソウ

## 2018年9月の「切り通し」の様子



ススキがだいぶ大きくなりました。ススキの間では、コナラやニシキウツギ、ヤナギの仲間が成長しています。ここをススキの状態を保つためには、刈り払いとか焼き払いをしなければ維持できません。一方このまま放っておけば低木の林になることが予想できます。



ニシキウツギ (5月)

## あつぎこどもの森公園・きょうこのごろ

### シイタケ栽培を始めました

森の一角に自然に生えたシイタケがありました。これはここがシイタケ栽培の適地に違いないと、自然PJでは試験的に始めることにしました。



2月22日 コマ打



6月20日 本伏せ

### 田植えをしました

今年の稲作に向けて、6月6日にクワとマンノウを使って土起しと代掻きを、6月9日には会員10人が田植えを行いました。昨年はイノシシの被害で全滅でしたが、今年は金属製の柵も設置。無農薬のコシヒカリの田にはイナゴや様々なトンボが飛び交っています。



## コラム；あつぎこどもの森公園の自然

この欄ではあつぎこどもの森公園で見かける自然界の動植物についてその特徴や生い立ち、効能など解説していただきます。また見方を変えたり、ミクロの世界をとらえた「あっと驚くふしぎ大発見」なども掲載して参ります。



### 暑さに負けないスベリヒユ

暑い夏の日から初秋にかけて黄色の花を咲かせるスベリヒユ、この花を見ることが出来るのは日の当たる午前時間帯だけで見落とすことが多い。枝先の中心に咲く小さな5弁花は花壇で人気のポーチュラカを連想させとても美しい。畑や田んぼの畦道、道端など何処にでも生える一年草。畑に生えると、とても厄介な雑草で草取りをしたのいつの間にかまた生えている。カキドオシのように成長していく節々から根っこを出しているわけでもなく、根っこは主根のみである。

その強さの秘密を探ると、対生の葉の脇から新しい茎が出て順次に新しい花を咲かせ種子を作っていく。さらに草取りで捨てられた場所でも種子が飛び散り、しばらく放っておくと新しい芽を出すなど逞しさを垣間見ることが出来る。雑草であるが、茎や葉は食用にもなり、薬用効果もある。蚊に刺された時はその汁をそのまま塗っても効き目があるなど人間の生活に大いに役立っている。 吉田文雄

## あつぎこどもの森クラブのイベント自粛について

あつぎこどもの森クラブがこれまで実施している大勢の方々が参加できるイベントは三密を避けることが難しい面が多く、新型コロナウイルス感染防止のため、現在はほとんどの行事の実施を中止しています。園路脇の草刈りなど一部の管理作業は里山環境維持の面から継続の必要があり、会員が感染防止ガイドラインを遵守しながら定期的に実施しております。

これからもしばらくの間はクラブ主催のイベントは開催出来ませんが、今後の実施にむけて内容や可能な方法などを検討しておりますので、ご理解をいただきますようお願い申し上げます。

### 体験イベント日程表

イベント自粛の関係上、総会でお知らせした行事、ほとんどのイベントなどが実施できなくなっております。行事予定などの確認は公園ホームページをご活用いただきますようお願いいたします。尚フェイスブックあつぎこどもの森クラブサイトにも掲載しております。



イラスト：山本俊太



イベントの日程・内容は天候、生育状況などの影響で、直前に変更になる場合があります。参加前に必ずホームページなどで確認してください。

電話：046-210-3433

受付時間：10月～3月 9:00～16:00

メール：[atugikodomonomorikurabu@gmail.com](mailto:atugikodomonomorikurabu@gmail.com)

HP：<https://atsugikodomonomori.com/>

### くめぎ便り 第16号

発行：2020年9月10日

編集 制作 あつぎこどもの森クラブ 広報  
発行責任者 井上 允

事務局 〒243-0202 神奈川県厚木市中荻野  
916-2（管理棟）

TEL046-210-3433